

○ 動物等と生活に関係した表現等（鈴鹿郡）

呼び名の聴き取りの中で、併せて採録した動物等と生活に関係した表現をまとめた。

① 両生類

- a) カエル類一般
 - ・「百姓するはガイル切り」
- b) ヒキガエル類
 - ・「フクガエルは『福ガエル』で金が授かる」
 - ・「フクガエルに吹かれると顔が腫れる」
 - ・「フクガエルに息をかけられるとイボができるので近寄るな」
- c) アマガエル
 - ・「アマガエルの腹を伸ばして目の近くで動かすと目が良くなる」
 - ・「アマガエルを飲むと体に良い」
 - ・すぐに泣く子のことを「アマガエル」と呼んだ。
- d) アカガエル類
 - ・アナバチの巣を探すためにアカガエルを用いた。
- e) トノサマガエル
 - ・カイコをエサにトノサマガエルを釣った。
- f) ツチガエル・ヌマガエル
 - ・煎じて風邪の熱さましとして飲んだ。
 - ・皮は腫れを取ったり、熱さましに使った。

② 爬虫類

- a) ヘビ類一般
 - ・「蛇は人に見られると天に登れない」
 - ・火除けのために屋敷内にヘビを祭っている。
 - ・小さいヘビを手の平に乗せ、頭を撫でると、ヘビが踊るように動いた。
- b) アオダイショウ
 - ・「カイドマワリが家にいると家が栄える」
 - ・「サトマワリは家の守り神」
 - ・ヤシキマワリは鶏等の卵を飲むと、高い所から体を落としてそれを割った。
- c) アオダイショウ（白化型）
 - ・「シロヘビは神様の使い」
- d) シマヘビ（黒化型）
 - ・「カラスヘビは追いかけてくる」
 - ・「カラスヘビに追いかけられたら川原を走り回れ。そうすれば腹が擦れて死んでしまう」
 - ・「カラスヘビは薬になる」
 - ・「カラスヘビは焼いて骨を食べると体に良い」
 - ・「カラスヘビは土瓶で蒸し焼きにして食べると結核の薬となる」
- e) ヒバカリ
 - ・「噛まれたらその日限りの命となる」
 - ・「マブシが死んでから生まれ出てきたのがヒバカリ」
- f) マムシ
 - ・「マムシの肝を食べると体に良い」
 - ・「マムシはその目を飲むと目の薬、体は焼いて食べると精力剤、骨を干し砕いた後に、麦ご飯でこねて土踏まずに貼ると熱さましとなる」

- ・「マムシは皮は傷薬、肝は精力剤、目は目が良くなる薬、骨は乾かし砕いて飲むと熱さましとなり捨てる所がない。また雌のほうがより薬になる」
 - ・ マムシを捕まえて、その目をくりぬき、目が良くなるようにと飲んだ。また、気が強くなるとして、その皮を剥ぎ干して乾かした後、焼いて食べさせた。
- g) トカゲ類
- ・ 「トカゲの尾をちぎると良いことがある」

③ 哺乳類

a) 哺乳類一般

- ・ 「(山から) 動物がいなくなると地震が来る」
- ・ 奈良の春日山から加太、菅内、稲生(現鈴鹿サーキット)まで山が連なっていたので、昔は山の動物が来た。

b) ネズミ類一般

- ・ 「ネズミがいけない家は火事になる。ネズミは火事の3日前に逃げる」
- ・ 「ネズミがいなくなると不吉がでる」

c) 田畑等にいるネズミ

- ・ すずみの中でたくさんの小さいネズミが冬を越す。

d) カヤネズミ

- ・ 「コギシロがたくさん巣を作ると米が多く取れる」

e) モグラ類

- ・ 昔はモグラの皮が懐中時計の入れ物として売れた。
- ・ 昔は子ども達がモグラをモグラ落として捕まえ、その皮を売った。

f) コウモリ類

- ・ 「コウモリが家に入ってくると縁起が良くない」と言い、追い出した。

g) サル

- ・ 「サルが出てくると雨が近い」
- ・ 「朝にサルを見ると験が良くない」

h) タヌキ

- ・ 「キツネは人を騙し、タヌキは化ける」
- ・ 「タヌキは人等に化けるので、おかしいと思えば足元を払え」
- ・ 山に火が見えると、「タヌキが火をとぼしている」と言った。
- ・ 「キツネ七化け(ななばけ)、タヌキ(は)八化け(やばけ)、カワ(ウ)ソ九化け(ここのぼけ)、ネコ(は)十化け(とばけ)」
- ・ 「昔、陰涼寺山には大タヌキがいて、車を停めた」という話がある。
- ・ うそつきの人のことを「ドタヌキ」と呼んだ。
- ・ タヌキは木に登り、体についた砂をふるい落とす。
- ・ キツネについて換金できた。毛皮が売れた。首巻にした。
- ・ 「タヌキ穴」と呼ぶ場所がある。(亀山市中庄町)

i) キツネ

- ・ 「キツネは人を騙し、タヌキは化かす」
- ・ 「キツネに化かされるといけないのでマッチを持っていけ。おかしいと思えば火をたけ」と言われた。
- ・ 「キツネ七化け、タヌキ(は)八化け、カワ(ウ)ソ九化け、ネコ(は)十化け」
- ・ 昔は夏になると、庭の縁台で年寄りが子ども達を相手に怖い話や他の村人がキツネに騙された話などをしていた。
- ・ 昔は山の畑に行き、夕方に帰る時は、キツネに騙されたり化かされたりしないようタバコに火をつけて帰ってきた。

- ・ 昔、広瀬に行く途中にゲンダイキツネ（又はゲンナイキツネ）と呼ばれた古狐がいて、人を騙した。（鈴鹿市三畑町にその稲荷がある。）
- j) カワウソ
- ・ 「カワウソは化ける」
 - ・ 「カワウソは人を騙す」
 - ・ 「川で遊んどるとカワウソに噛まれるぞ」と昔言われた。
 - ・ 酒飲みの人ことを「カワウソ」と言った。
 - ・ 「カワウソの一枚歯で噛みつかれるとあぶない」
 - ・ 「キツネ七化け、タヌキ（は）八化け、カワ（ウ）ソ九化け、ネコ（は）十化け」
- k) アナグマ
- ・ 太った人のことを「シクマタヌキのような人」と言った。
 - ・ 変わった人のことを「ムジナのような人」と言った。
- l) テン
- ・ 「そんな怖いところ行くと、オオカミやケテンが出るぞ」
- m) イタチ
- ・ 「イタチの最後尻（さいこべ）を嗅ぐと顔が腫れる」
 - ・ イタチが前を横切ると「イタチいっぺん顔見せよ」と言った。
 - ・ 逃げ足が速い人のことを「ミズイタチみたい」と言った。
 - ・ 男の人の前では「イタチが右から左へ横切ると良いことがある」と言い、逆の場合「道に物を落とす」と言った。女の人の場合は反対となる。
 - ・ 「イタチは目が近いから、立ち止まってあちこち見る」
 - ・ 子ども時代は、イタチを捕まえ皮を売った。
 - ・ イタチの血は薬になった。
- n) イノシシ
- ・ 昔はイノシシの皮で足袋（ガンリキ）を作ったことから、「サンソク」等足袋が取れる数でイノシシを呼んだ。
- o) シカ
- ・ シカは「カイホウ」と鳴く。
- p) カモシカ
- ・ カモシカは声を掛けると止まり、赤い布を振るとじっと見ている。
- q) ウシ
- ・ 牛が狂ったように鳴く状態になると「カモになる」と言った。
 - ・ 「牛は賢い動物である」
- r) オオカミ
- ・ 人前を歩く「迎えオオカミ」、後ろを歩く「送りオオカミ」という。
 - ・ 「オオカミがいる時にこけると襲われる」
 - ・ 「オオカミは夜中に溜めの小便を飲みに来る」
 - ・ 「昔はオオカミが金王道を通り、白子の海まで潮を飲みに行った」
 - ・ 「昔はオオカミが安楽川を下り、海へ潮を飲みに行った」
 - ・ 「昔はオオカミが内部川を下り、海へ潮を飲みに行った」（四日市市水沢町）
 - ・ 「やまげ（山家？）では送りオオカミがいて、どこまでもついて来て、人を飛び越したりした」
 - ・ 「嘘をつくとオオカミが追わえてくるぞ」
 - ・ 「オオカミ坂」と呼ばれる場所がある。（亀山市川崎町内）
- ④ その他
- a) ウマ
- ・ 「馬糞を（素足で）踏むと背が高くなる」

- b) ネコ
 - ・「キツネ七化け，タヌキ（は）八化け，カワ（ウ）ソ九化け，ネコ（は）十化け」（「ネコは最もよく化けて怖い」という意味）
- c) ツルベオトシ（又はツルベオロシ）
 - ・「遅くなるとツルベオトシが出るので早く帰れ」
 - ・「悪いことすると，ツルベオロシが降りてきて，木の上へ引っ張ってって食べられるぞ」
- d) カッパ
 - ・「カッパに尻を抜かれるぞ」
- e) その他
 - ・ 鳥やネズミの生まれたばかりのものやヒルが血を吸い大きくなったものなど，形態がはっきり分からない丸い状態のものを「ドンビ」又は「ドンビン」と呼んだ。